

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム悠々

目標達成計画

作成日: 平成 29 年 2 月 13 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間の避難訓練を次回実施する予定である。館内全体で職員がどのような動きをすればスムーズな避難誘導をできるか、課題である。	夜間を想定し、職員の数を夜間帯の配置人数で施設全体で避難訓練を実施する。	防災委員会を設けて、夜間帯の訓練をどのようにしていけばいいかを、消防署員の助言を受けて計画書を作成し、避難訓練を実施する。	8ヶ月
2	26	毎月行っているモニタリングを基に、職員が介護計画に携わり、利用者様の変化に関わっていく必要がある。	利用者様の変化に伴い、計画作成者、看護師、担当介護士が話し合い、介護計画書を作成する。	担当介護士との連絡を密にとり、モニタリングを作成する。介護計画書の更新時にかかわらず、利用者様の変化に合わせて担当者会議を設ける。	2ヶ月
3	45	利用者様のADLの低下もあり、浴槽にはいることが困難な利用者様が増えつつある。機械浴お取り入れるなど安全に心地よい入浴方法を考える。	浴槽に入ることが困難な利用者様に月1～2回程度機械浴に入ってもらく。	機械浴の1か月の予定表を作成し、看護師とともに、身体状況を確認し、安全を考慮し入ってもらう。	2ヶ月
4	2	地域密着型ということから、地域との交流を持たなければならない。グループホーム1事業所だけで取り組むのではなく、さくら一番館全体で取り組んでいく。	・地域の方の多目的室利用の促進。 ・地域の行事等の参加。	館内の行事に地域の方が参加していただけるように、ポスター等で呼びかけをする。	6～12ヶ月
5	11	法人の事業所が拡大されていくことにより、上層部の意見が伝わりにくくなる恐れがある。また逆に職員個々の思いが伝わりにくく何も反映されなくなる。	・段階的に会議を設けて、法人の方針等を事業所全体に伝えていく。 ・事業所の管理者は、職員の意見を会議等で伝えていく。	法人の体制を現在見直し、調整をしている。体制を整えることにより、現在よりいっそう相互の意見が伝わるようにしていく。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。